Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-06

技術者の多様性と研究開発成果に関する実証研究ー製薬企業における日本と欧米の比較分析ー

今井，佐知子

(Degree)
博士（経営学）

(Date of Degree)
2015-03-25

(Date of Publication)
2020-03-25

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第6290号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006290

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

学位論文審査要旨

氏名　　今井　佐知子

論題　　技術者の多様性と研究開発成果に
関する実証研究－製薬企業における
日本と欧米の比較分析－

審査　　平成２７年３月

神戸大学

論文内容の要旨

本論文の目的は、研究開発組織における多様性が研究開発成果にどのような影響を及ぼしているのかについて実証的に明らかにすることである。多様性のなかでも、個人のレベルでの、技術的多様性、すなわち、知識・経験の多様性、コミュニケーションの多様性、情報源の多様性に着目していることが特徴である。

具体的には、個人レベルの技術的多様性が研究開発成果に、どのような影響を及ぼすのかについて理論的に考察したうえで、国内製薬企業の研究開発組織に所属する研究開発担当者（技術者）を調査対象として選択し、主に定量的な手法を用いて技術的多様性と研究開発成果との関連性を分析している。

本論文の構成は以下のとおりである。

第１章では、まず、組織レベルと個人レベルの多様性に関する先行研究がレビューされる。次に、本論文の位置づけが示されたうえで、製薬産業のように異なる技術のすり合わせが必要となる産業を想定した分析の枠組みが提示される。

第２章から第４章は実証分析の項目である。第２章および第３章では、アンケート調査、第４章ではインタビュー調査の結果が示されている。

第２章では、日本と欧米の雇用制度に関する先行研究がレビューされる。次に、技術的多様性と研究開発成果の関係について、日本と欧米の技術者を対象とするアンケート調査結果の比較分析が行われ、それぞれの特徴が明らかにされている。

第３章では、製薬産業の技術マネジメントに関する先行研究がレビューされる。次に、日本人技術者を対象とするアンケート調査結果の追加分析が行われている。例えば、研究部門と開発部門の比較分析の項目では、それぞれの部門の特徴が明らかにされている。さらに、第２章および第３章において、重要性が確認された知識の多様性については、その規定要因についても検討されている。

第４章では、定量的調査の結果について、技術者の視点での解釈を行うために、技術者を対象とするインタビュー調査が実施されている。

第５章では、本研究の発見事実として、技術的多様性、特に、知識の多様性が、研究開発成果を高めるうえで重要であることが示されている。一方、技術者の職種（研

究と開発）、勤務地（日本と欧米）、研究開発成果の指標などの前提条件によって、活用あるいは獲得すべき技術的多様性に特徴が認められることも示されている。加えて、理論的・実践的インプリケーションが論じられ、今後の研究課題と本研究の限界についても指摘されている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、技術者個人の有する技術的多様性が研究開発成果にどのような影響を及ぼすのかについて定量的に分析したものである。先行研究では、組織的多様性の重要性を指摘するものが多いなか、個人的多様性に着目し、その実証分析を日本、欧米で実施した点は高く評価できる。その結論として得られたのは、知識的多様性こそが日本、欧米を通じて成果への貢献度が高いということであり、経験、コミュニケーションなどの多様性については日本と欧米との間で対照的な結果が得られている。これらは日本と欧米のキャリアパス等の制度的相違に起因するものであり、個人的多様性の影響について多面的な角度から検討されており、技術マネジメントにおいて貴重な貢献であると判断される。

ただし、論文の構成、理論概念の明晰化や論の立て方、説明の仕方において課題が少なからず見られる。しかし、これらは筆者の力量をもってすれば、将来的に容易に改善されるものと思われる。また、このようなことを考慮しても、本論文の学術的貢献は依然として大きいものと判断される。

以上の理由から、審査委員は、本論文の著者が、博士（経営学）の学位を授与されるに十分な資質を持つものと判断する。

平成２７年３月６日

審査委員　主査　教　授　原田　勉
教　授　原　拓志
教　授　鈴木　竜太